

第1回津別町議会定例会『行政報告』

はじめに、誠に残念な報告ではありますが、去る2月18日、津別町消防功労者 宮脇義明様のご逝去されました。故人は、永年、消防団員として、地域の防災活動に多大なご貢献をいただいたところであり、生前中の数々のご功績に対し、衷心より敬意と感謝を申し上げますとともに、安らかなご冥福をお祈り申し上げる次第であります。

次に、叙勲についてではありますが、高齢者叙勲としまして、津別町字大昭 小澤實様が、津別町議会議員として永年にわたり地方自治にご尽力されたご功績により、旭日単光章を受章され、2月27日に伝達されました。この度の栄えある受章に対し、心より敬意を表する次第であります。

次に、丸玉木材株式会社からの寄附についてではありますが、12月26日、丸玉木材森づくり基金のための寄附として、平成29年度分の500万円のご寄附をいただいたところであります。

改めて丸玉木材株式会社に感謝の意を表しますとともに、今後も丸玉木材森づくり基金による愛林のまち緑資源を守る推進事業を継続し、本町で実施する造林や除間伐などの森林整備事業に助成を行い、豊かな森林の育成に努めて参る考えであります。

次に、北海道立林業大学校の誘致活動についてであります。津別町からオールオホーツクによるオホーツク地域への誘致活動を関係機関に提案しておりましたが、平成29年12月28日に、「網走東部流域林業大学校等人材育成機関誘致期成会（会長 辻 直孝北見市長）」が設立され、平成30年2月8日には、網走東部流域期成会と網走西部流域期成会が一体となり、「オホーツク林業大学校誘致協議懇話会（会長 東京農業大学 黒瀧秀久教授）」が結成されました。

これにより、2月21日、北海道水産林務部長に対し、管内18市町村の総意による「(仮称)北海道立林業大学校を網走西部・東部流域に設立する提案書」を、滝上町長とともに懇話会を代表し提出したところです。この席には、オホーツク総合振興局管内選出道議会議員6名全員が応援団として同席されました。

北海道は、学年定員を40名程度とする「(仮称)北海道立林業大学校基本構想(案)」を策定し、2月21日～3月20日までの間パ

ブリックコメントを行ない、これを経て3月末には基本構想を確定することとしています。提案内容11項目の一番目には、「本部開校可能施設については、滝上町や津別町等を提案するとともに、網走西部・東部流域の18市町村が現場実習を可能とするサテライトとして提案する」としており、既に手を上げている道内他の12地区に負けないよう、引き続き誘致活動を進めて参ります。

次に、**国営農地再編整備事業**についてであります。一昨年度実施地区となり昨年度より工事に着手したところですが、1月19日、道内選出国會議員、農林水産省及び国土交通省北海道局の関係部局を訪問し、平成29年度補正予算措置へのお礼と平成30年度予算措置について要請活動を行って参りました。昨年度は、8月に3度も台風が上陸し、工事に遅れが生じましたが、今年度はほぼ計画どおり順調に進み、整備後に作付けした農地の事業実施効果についても説明してきたところです。

今後も予算の確保により、事業の着実な実施を図り、平成36年度までの計画年度内で完了できるよう、引き続き国営事業促進期成会及び推進協議会の役員等事業関係者と連携し、関係機関への適期の要請活動を行って参ります。

次に、**地域医療維持補助金の要請**についてであります。1月

29日、丸玉木材株式会社並びに津別病院より、地域医療維持に係る補助金の要請を受けたところであります。これまで町内唯一の医療機関として地域医療を担うため、医師、看護師など医療従事者の人員確保や、救急医療を含めた診療体制を維持するための経営努力が続けられているところですが、人口減などにより、厳しい経営環境にあると報告されたところです。

町としましては、このたびの要請の趣旨に鑑み、本町の保健、医療を守る観点から支援に向けた対応を取ることとし、引き続き経営努力を求め、町民に対する医療サービスが、維持・提供されるよう要請して参ります。

次に、**交通死亡事故**についてであります。2月3日、共和地区国道240号と町道104号線との丁字路交差点で、町内在住の男性が運転する軽トラックが町道から国道に出ようとしていたところ、釧路方面から走行してきたタンクローリーと出会い頭に衝突し、軽トラックを運転していた男性が死亡する痛ましい事故になったところです。平成28年度に短い期間で3件の死亡交通事故が発生し、「交通死亡事故発生に伴う非常事態宣言」を発し「緊急交通安全運動」を取り組んで参りましたが、今回の事故により、町内における死亡交通事故ゼロ日運動は456日でストップし、町民による死亡

交通事故ゼロ日運動についても、507日でストップすることとなりました。

悲惨な交通事故を再び起こさないためにも、引き続き交通安全に対する啓蒙及び啓発を行う運動を展開して参りたいと考えておりますので、町民の皆様のご理解とご協力をお願いする次第であります。

次に、地域支え合いフォーラム2018 in つべつについてであります。2月7日、中央公民館において、生活困窮者などへの地域支援型推進モデルの研究事業に取り組む、大阪市立大学大学院の野村研究室と北海道総合研究調査会、津別町社会福祉協議会、及び津別町との共催で開催されました。

第1部では、一昨年から町内2箇所でモデル地区として取り組んでいる、地域住民を主体とした身近な福祉相談所の活動報告が行われ、第2部では、「みんなが生き生きとする津別町に向けて」と題し、法政大学教授の湯浅 誠氏による講演が行なわれました。第3部では、身近な福祉相談所などを拠点に、地域での見守りや個別支援に関わる担い手の方を交えて、この間の活動の状況や地域の課題などについてリレートークが行われました。

今後とも引き続き、生活困窮者などへの支援や、専門職と地域住民が連携して支え合う相談支援体制の拡充に向け、関係者と連携し

て取り組んで参ります。

次に、平成29年度林野火災予防に関する標語、ポスターの知事賞の受賞についてであります。毎年6月に、林野火災予防の普及啓発を図ることを目的に、小学校に標語とポスターの募集を行っており、その作品の中から網走南部森林管理署、オホーツク総合振興局東部森林室、校長会及び町による審査を行い、優秀と認められた作品それぞれ3点を北海道に推薦しているところです。

このたび、標語部門において、津別小学校4年生の山口樹里^{やまぐちじゅり}さんの作品「守ろうよ 森の温もり 未来へと」が優秀賞を受賞し、同じく4年生の山本瑞紀^{やまもとみずき}さんと6年生の笠原佑梨奈^{かさほらゆりな}さんが入選しました。ポスター部門では、5年生の小林空^{こばやしそら}さんと4年生の久保莉桜^{くぼりお}さんが入選し、3月1日、津別小学校校長室においてオホーツク総合振興局工藤地域産業担当部長より賞状と記念品の伝達が行われました。

受賞された皆さんにお祝いを申し上げますとともに、町としましても引き続き、林野火災予防の普及啓発活動を推進して参ります。

次に、建設工事等の発注状況についてであります。3月1日現在、

○ 一般土木工事関係については、18件 181,257千円

○ 一般建築工事関係については、32件 231,264千円

○ 簡易水道・下水道工事関係については、

17件 152,626千円

○ 設計等委託業務関係については、

34件 254,435千円

であり、平成29年度予算分については、すべて発注を終了した
ところでは、

なお、今議会におきまして、人事案件、条例制定及び新年度予算
等の議案を提出いたしますので、慎重にご審議の上、原案にご協賛
賜りますようお願い申し上げ行政報告といたします。